

20016

CHIによる手背潰瘍に、EVTにて有効であった維持透析の1例

【症例】60代の女性。主訴は右手背潰瘍。糖尿病性腎症で透析導入。2013年12月、右手背に潰瘍形成を認め造影を行った。造影上、Subclavian artery 90% Brachial artery 75% Radial artery 100% Ulnar artery 99%で、Ulnar、Brachial、Subclavian artery にEVTを行った。治療経過は良好で、潰瘍は退縮、痂皮形成に伴い痛みも消失した。しかしながら、2014年3月、同部位に痛みを伴う潰瘍と感染も合併し、EVT施行した。Radial・Ulnar artery は100%、Subclavian artery は75%の狭窄を認めUlnar artery、さらに今回はRadial artery にもEVTを試み血行再建術に成功、Subclavian artery はステントを留置し終了とした。治療後、疼痛は消失し感染巣も改善した。【結語】CHIは稀な症例であり報告例も少ないが、繰り返しEVTを行う事で対応可能な症例もあると考えられた。